京都市営地下鉄東西線

太秦天神川駅より徒歩14分
［病院直通シャトルバスを運行します］

市バス

70系統南太秦バス停すぐ
梅津段町バス停より徒歩9分

京福嵐山本線

太秦広隆寺駅より徒歩9分

TEL 075・861・2220　FAX 075・822・5781

HP http://kyoto-min-iren-c-hp.jp/

内科／循環器内科／呼吸器内科／消化器内科／内視鏡内科／肝臓内科
神経内科／腎臓内科／人工透析内科／感染症内科／腫瘍内科／緩和ケア内科／血液内科
糖尿病内科／代謝内科／脂質代謝内科／外科／肛門外科／心臓血管外科
脳神経外科／消化器外科／乳腺外科／呼吸器外科／整形外科／リウマチ科／脊椎外科
関節外科／小児科／産婦人科／皮膚科／泌尿器科／精神神経科／眼科／リハビリテーション科
放射線科／耳鼻咽喉科／麻酔科／臨床検査科／救急科／病理診断科／歯科口腔外科

救急告示病院
京都府がん診療推進病院

厚生労働省指定基幹型臨床研修病院
認知症初期集中支援医療機関

ISO 9001認証取得

卒後臨床研修評価機構認定病院

日本医療機能評価機構認定病院
日本医療機能評価機構付加機能
（緩和ケア機能）認定病院

在宅療養
あんしん
病院

一般財団法人 日本医療教育財団
外国人患者受入れ医療機関
認証制度

公益社団法人 京都保健会
京都民医連中央病院
〒616-8147　京都市右京区太秦土本町2番1

京都民医連中央病院 病院報

KMCH つうしん

Kyoto Minilren Chuo Hospital

2019 リニューアル移転
創｜刊｜号

＝すべての人々にとって＝
なくてはならない
病院をめざして

新しい中央病院への期待の声や、これからを担う若手職員の想いを届けます

特／別／イ／ン／タ／ビ／ュ／ー

Interview

地域の方々と様々な形で関わっていけるように

京都民医連中央病院報「たいしみち」は、当院の情報をみなさまにお伝えする役割を15年にわたって担ってまいりました。この度、2019年11月1日の移転を期に、「たいしみち」に代わり「KMCHつうしん」を創刊いたします。これまで通りご愛読いただければ幸いです。

さて、5年前より進めてきました移転計画は最大の山場を乗り越えることができました。10月20日の内覧会には1,600名を超える方々にお越しいただき、盛況に執り行うことができました。大きな注目をいただけていることをうれしく思うと同時に、非常に気の引き締まる思いです。移転当日の11月1日は幸い好天に恵まれ、無事に230名の入院患者さまの移送を終えることができました。朝7時に最初の患者さまが旧病院の病棟を出発され、14時に最後の患者さまが新病院に入床され、その間に事故などのトラブルもなく、ほとんど予定通りに終了したことは、ご協力いただいた多くのみなさまのおかげです。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

11月3日より救急受け入れ、5日より外来診療を開始し、当初は様々な不具合も発生し、ご利用のみなさまには大変ご迷惑をおかけしましたが、現在では安定稼働に至っております。旧病院と比べて4割が個室となり、病床面積も最大8割拡がり、非常にゆったりとした療養環境を提供することができました。患者さまからも多くの温かいお言葉もいただいており、職員にとって大きな励みとなっています。移転当日の夜に、病棟のご高齢の方が数人、デイルームで談笑しながら食事をされている姿を目にして、本当に心が暖まる思いでした。

これからは、急性期機能をより強化する形で診療機能を高め、地域の医療機関のみなさまとより連携を深めてまいります。特に総合性と他職種連携の力を十分に発揮し、病気だけではなく心から生活まで見渡した全人的医療を提供できるように研鑽を積んで参ります。また、地域の方々の健康増進に、教育から居場所づくりまで様々な形で関わっていけるようにいたします。

「（すべての人々にとって）なくてはならない病院」に少しでも近づけるように、標準的治療、低侵襲性治療を心がけ、総合的な質の向上に取り組みつつ、地域のヘルスプロモーションを推進する拠点となれるよう、人づくりに尽力してまいります。器は大きく新しくなりましたが、中身も器同様に大きくなれるよう、同時に公正性を掲げた理念は決して揺らぐことのないように、職員一同頑張ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

京都民医連中央病院 ● 院長
松原為人

Interview

人びとに「寄り添い」「溶け込む」新病院！つなぐ「かけはし」友の会！

京都中・右京健康友の会 ● 会長

藤原冬樹

移転・新築の新京都民医連中央病院の完成おめでとうございます。信頼と期待の思いを込め、喜びのご挨拶を送ります。

「リビング」誌（10月12日号）が、「人々の病気を治す病院から、地域に寄り添う病院へ、移転とともに、新たな役割がプラスされるようです」。松原院長への取材をしての記事です。また経営する公益社団法人京都保健会の吉中理事長は先日の理事会で「地域の人々の心に溶け込む病院でありたい」と挨拶されました。私は「寄り添う」「溶け込む」という言葉に、現代の民医連の全体像が示されているように感じ、心が動かされました。

10月20日、新病院の内覧会には1,600人の方々が来られ、真剣なまなざし、気持ちの良い笑顔で見ていただいたのは、正直言って本当にうれしく思いました。それだけではありません。25名の方が健康友の会に入っていただいたのです。まさに「ヤッホー!!」です。

京都中・右京健康友の会は今、新たに西京健康友の会と合流し、11,000名をめざして活動を広めています。中央病院建設の今、「大事だ」と思っていることは次の四つです。

①何といっても大事なのは学区ごとの活動です。「個性」と「つながり」が大いに発揮できる場です。

②京都民医連太子道診療所での外来患者さまと地域のみなさまともっと親しくなり、中京区での活動を定着させます。

③建設地である南太秦とともに太秦・嵯峨野・梅津・常盤など右京区での活動の強化です。幸いにも近隣の病院、診療所の先生方との交流が深まり、医療・介護懇談も、社会保障を守る活動も広がっています。

④「健康友の会」会員さんの広がりです。朱八学区の会員さんは人口の一割、1,000人を超えます。職員と友の会の連帯で、頑張ってきた力です。健康づくりで一致する市民のみなさまのご入会を歓迎します。医療機関と地域のみなさまとの「かけはし」となってがんばります。よろしくお願いいたします。

南太秦自治連合会として ちいきの期待と要望

南太秦自治連合会 ● 会長

高岡宏行

私達地域住民が待ちこがれていました京都民医連中央病院が、2019年11月新築移転致しました事を心よりお喜びとお祝いを申し上げます。地域住民にとりましては、優しく親切で地域医療にご奮闘されている病院に、大いなる期待と喜びを致している所です。

近年の少子高齢化や人口減少等の社会問題が如実に表面化する中、私達、南太秦自治連合会は病院移転を好機ととらえ、地域を中央病院と支え合い、助け合える良き関係を構築し、頻繁な交流を通じた地域コミュニティの活性化、安心・安全で住み良いまちづくりを地域力、人間力を生かし推進していかねばならぬと思っています。同時に、多発する大規模災害に対する共通認識を共有したいと思います。どうぞ、ご協力の程お願い申し上げます。

411床の総合病院が当学区で開業されるとは夢にも思いよらぬ出来事で、高齢者の方、小さいお子さまをお持ちのご家庭には「安心・安全の医療の追求」「患者さま本位の医療実践」している京都民医連中央病院は大変喜んでいただける事であると思っています。外来医療については、地元の要望も取り入れていただき、地域で民主的な医療を最優先に取り組んでいただけましたらと思います。

今後、医療や介護を取り巻く情勢は、多くの国民的課題が生じる事と考えます。地域医療に責任を持つ「京都民医連中央病院」と互いに共同しながら、地域住民のいのちと健康を守っていきたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

新病院に期待すること

Interview

京都民医連中央病院新築移転、まことにおめでとうございます。これまで周辺の区の総合病院をかなり頼りにしていた右京区の救急医療や急性期医療にとって、区内に一つの大きな柱ができることになり、地域の医療提供体制に大きな変化をもたらすことでしょう。晴天に恵まれた10月20日の竣工式、内覧会の日、完成した新病院を見て想像していた以上の規模の大きさに驚かされました。西側には広い芝生のスペースがあり、地域に開かれた病院であることを象徴しており、まるで区民にとって新しい憩いの場ができたようでした。災害発生時にはここで人々が助け合ったり、支え合う場になるのではないか、そんな日は来てほしくはないのですが、そのような思いが心をよぎりました。

救急室、手術室、血管造影室、内視鏡室、腎センターなど、どれをとっても最先端の機器が備えられ、広く、洗練され、充実した設備となっています。一般病棟、地域包括ケア病棟、女性病棟、緩和ケア病棟等、患者さんが過ごすスペースは落ち着いた色調で構成され、その中に効果的に明るい配色がちりばめられ、訪れた人の心を癒すであろう美しい空間が印象的でした。窓の外に目をやると右京、西京の山並みが連なって見え、右京区が美しい自然に囲まれた素晴らしい景観を持つ地域であることにあらためて気づかされた次第です。

新しい病院がめざされるのは地域の人々に頼りにされ、困ったときにはこの病院があると安心できる医療機関になることだと思います。特別な疾患でなくても、在宅患者さんが発熱して肺炎が疑われるとき、食事がとれなくて脱水傾向となり在宅で様子をみるのが不安なときなど、とにかくすぐ来てくださいと積極的に受け入れてもらえることは、かかりつけ医や看護、介護にたずさわる多職種の人たちにとって大変心強いものです。

地区医師会としても既存の医療機関とともにそれぞれの持つ機能や医療資源をお互いに熟知して、スムースで密度の濃い連携を常に維持して、地域の人々によい医療を共に提供していくことができたらと思います。

右京医師会 ● 会長　／　京健会 西京病院 ● 理事長

松井亮好

在宅医療でのさらなる病診連携の進化に期待

Interview

ある自宅でのひとこま。転倒して動けない独居患者さんを往診しました。

「うーん、体動時に明らかに腰に痛みがあり一人での移動は難しいな」

「腰椎に局所的な打痛がある、これは圧迫骨折の疑いがあるな」

「手術適応はなさそうだが、自宅での生活はどうみても厳しい、夜間トイレにいくことができないな」

「だけどこの状態で受け入れてくれる病院はあるだろうか」

「入院するには費用面できびしいと本人は話される…」

「うーん、どうしたものか…」「困った困った…」

「そうだ！いい病院があった！無料低額診療事業もされているし相談してみよう」

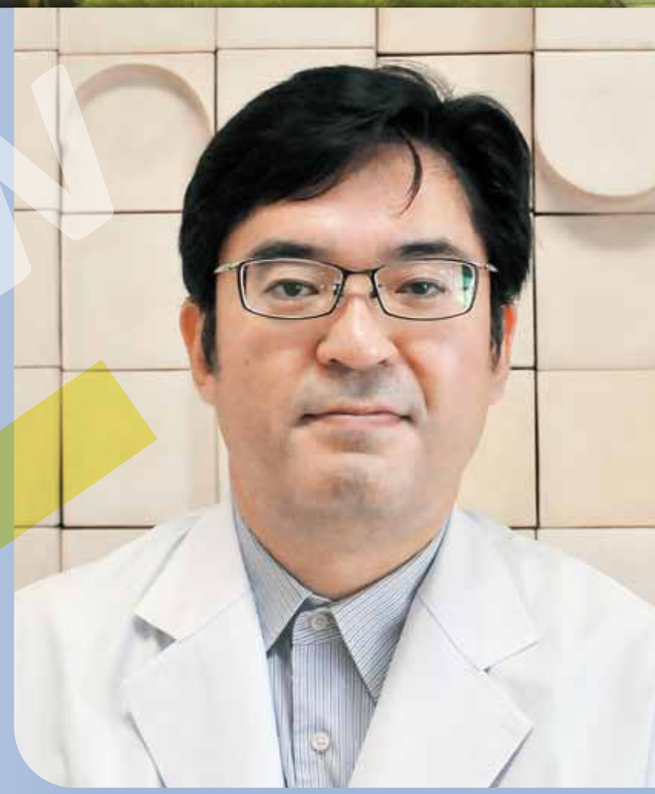
「さっそく京都民医連中央病院地域連携課に連絡だ！」

いつも大変お世話になっております。在宅医療をしていると、このような場面によく出くわします。

純粋に入院治療を必要とする救急疾患があれば入院受け入れをお願いしやすいです。しかし独居・老老介護など介護力に問題があり自宅での生活が一時的に困難になった場合、かかりつけ医として対応に悩みます。ケアマネジャーや訪問看護や訪問介護をはじめとする多職種連携で乗り切れるケースもありますが、どうしても訪問サービスだけでは対応できないケースがでてきます。これまで京都民医連中央病院には何回も助けていただきました。もちろん全身状態改善して自宅療養できるようになれば、退院後の受け入れをしっかり多職種連携でします。どんなケースでも病院に丸投げすることはあってはなりません。

セキュリティの確保されたネット回線を用いた病診連携の取り組みもされています。患者家族さんに情報共有することの同意を得たうえで、入院中の血液検査や画像検査などがリアルタイムで把握できるようになりました。診療情報提供書の情報にとどまらない細かな医療情報を知ることで、退院後の受け入れ・今後の病状の予後予測・患者家族さんへの病状説明もしやすくなりました。さらなる病診連携の進化に期待しております。

これからさらなる超高齢社会・多死社会に向かうことは間違いなく、医療・介護・福祉に携わる関係者が知恵を出してこの難局を乗り越えないといけません。今後の右京区の地域医療構想を考える上で、京都民医連中央病院の存在は大変重要になります。ますますのご発展期待しております！



イトウ診療所 ● 所長

伊藤照明

新時代を迎える 京都民医連中央病院と地域医療

Interview

この度は新病院のオープン誠におめでとうございます。

内覧会に行かせてもらいましたが、本当に素晴らしい病院で、私が病院で働いていた頃とは全く違い、すべての場所に充分なスペースが確保されており、入院患者さまは制約の多い入院生活であっても、かなり快適に過ごせる印象でした。もちろんスタッフにも充分なスペースがあり、全体の大きさを考えると、移動だけでもかなり疲れるのではと思ってしまいました。

その中でも特に全く仕切りのない詰所には、今まで見たことのない発想で驚かされたと同時に、勝手に入る人もあると考えられ、個人情報の管理はどうするのかと不要な心配をしていました。

このような素晴らしい施設のもと、医療内容も一層充実されるものと思っております。

今までも、多くの患者さまで入院・救急とお世話になっておりましたが、団塊の世代が75歳を迎える2025年には未曾有の超高齢化社会を迎えることになり、今まで以上に地域の病院と開業医の関係を強化する必要があると思っております。その中でも急性期病棟・回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟・地域包括ケア病棟と多彩な病棟を有す京都民医連中央病院との連携の重要性は、言うまでもありません。また、私の専門は循環器内科領域ですが、今後は心不全患者さまの増加、いわゆる“心不全パンデミック”が予想されており、心臓リハビリテーション施設を持つ京都民医連中央病院との連携は、不可欠のものと考えております。

その上、いつかは来るであろう大規模災害時には、3日間の電力や飲料水の確保をされていると聞き、災害拠点病院ではありませんが、地域の拠点病院として、大変頼りになる存在であると期待しております。

このような京都民医連中央病院を右京区に迎え、開業医を含む他の医療機関との密接な連携関係を築くことが、地域全体の医療レベルの向上につながると確信しております。また、当院もその一端に貢献できればと思っております。

高島診療所 ● 所長

高島啓文

理学療法士 ／ リハビリテーション療法課	医師 ／ 消化器内科	医師 ／ 腫瘍内科	薬剤師 ／ 医療安全管理課	救急看護認定看護師 ／ HCU
金本 雅俊	神渡 翔子	ファム グェン クィー	日比 麻有	柳田 睦美

これからを担う 私たちの想い

神渡　みなさまお集まりいただきましてありがとうございます。今日は病院報の移転リニューアル創刊号の特別企画で、若手職員の座談会を、とのことで、幹部から見て若手で、現在それぞれの部署で中核を担い、今後の展開を考えていく立場にあるメンバーに私のほぼ一存で声をかけさせていただきました。さて、話すにもテーマが必要です。今回はリニューアル移転に向けて、最近院長がかかげている「地域になくてはならない病院」をめざしたいというスローガンについて、みなさん最前線で働いている中での思うことなど、いかがでしょうか。

クイー　そうですね、たとえばアメリカのがんセンターなど先進病院のホームページを見ていますと、「がんを失くす」とかすごくかっこいいスローガンを掲げていて、アメリカなら特に問題ないんですけれど、うちは新しい地域に移ってまだ知られていない病院なのに、ここには必要な病院だよ、っていうのはあまり謙遜的ではない、というか…。

神渡　日本人的ではない。

クイー　そう。

一同　笑（ベトナム人の）クイー先生から言われると…。

クイー　まあ、僕はそこだけ違和感がありまして、「地域の医療を支える病院」とかそんな感じでいいのではと思うんですけどね。

神渡　そうなんですよね。そもそも民医連に名を連ねる施設は、医療機関がいろいろな事情で手薄な地域で、ちゃんと医療を受けたい、病院が欲しい、じゃあ作ろうということで、青空診療所みたいなのから始まっているところが多いんですよね。ただ、今回は場所が手狭になってしまったので、病院としてはある程度完成した組織でありながら、新しい場所に移転ということなので…。

日比　転校生みたいな感じですよね、新しいところいって友達できるかな、という。

神渡　そうですね。地域に育ててもらうというか、そういう意識のほうが良いような気がします。

クイー　新しいところでどんな医療が求められているのかですが。

柳田　救急を一次から入院での治療、回復期や地域包括ケア病棟まで、総合的に診られるところは少ないので、そこでの役割を果たせたらいいかなとは思います。診療科の規模もそれなりに大きいですし。実際、急な病気での入院をした時、HCUでの治療が必要な重症な病態であっても、できるだけ早くから、退院後の生活を見据えた介入を行っています。なので、ケアマネージャーさんはもちろんですが、介護保険を使ってない方もいますし、地域からの情報は最初から大事です。

Round Table Discussion

日比　せっかく健康友の会という地域主体の組織も元からありますし。あまりそういう病院は他にないですよね。

クイー　そういうことをどうやって知ってもらうか。

日比　話が聞ける場とかこちらの話も聞いてもらう場というか。

金本　それでいったら医療懇談会とか、昔からよく開催してますね。

柳田　リハさんはよくやってますよね。

金本　健康体操、腰痛体操とか。HPHの活動の一環でこのエリアでの健康な高齢者向けの健康体操教室とかは続けているんですよ。病気になって病院にかかるだけではなくて、そもそも病気にならないように、あるいは早く回復するように、病気を抱えていてもできるだけ元気に普通の生活を送られるように、地域に出た活動っていうのを広げていくと必要とされてもらえるかな、わかってもらえるかなと。

神渡　健康寿命を伸ばすために。

金本　そうです。診療報酬になることだけが医療ではないので。

柳田　地域で開催するのもいいですけど、病院で開催するとかでもいいかもしれませんね。

クイー　プログラムを作って、毎月色んなイベントを組んでいったらどうかなと。

日比　枠組みを作ってしまったら関わりやすいですよね。

柳田　各部署で持ち回りを決めてしまって。

日比　生活まで診るっていうのが民医連の強みですからね。そういうところから無理なく自然な形で、それぞれの職能に寄せてやっていけたらいいですよね。

クイー　今までは民医連の診療所から病院を作ってきたけれど、病院自体は今はあるので。

神渡　病院をハコとしてつかってもらって、ですね。そういうことを繰り返していったら地域のニーズに合った病院に育っていけるんじゃないかなと。

日比　やりたい気持ちはきっとみんなあって、でも毎日の業務に追われてなかなか取り掛かれていないと思うので… きっかけがあるといいのかなと思いますね。

神渡　新しいことを始めるには、今回の移転はいいきっかけだと思いますね。誰しもが人生のどこかのタイミングで医療には関わるので、ここに住んでいる人たちの人生に良い形で関われていける病院になれたらいいんじゃないかなと、これは私の医療者としての思いでもあるんですが、これだけ多職種そろっていますし、それぞれの分野で発信できたらいいかなと思います。

日比　本当は病院なんて縁がないほうが良いと思われそうですけれど、でも病気だけじゃなくって健康なまちづくりっていう形で、病気になったから来るというよりも日常の中で関わっていけるようなところになればいいかなと思います。

神渡　そうしたら「地域になくてはならない病院」になれるかな。

クイー　これだけ色んな職種が集まっているので、病院の業務の中だけのつながりじゃなくて多職種が外でも関われるといいですよね。地域の医療機関の方々も一緒に。

神渡　そうですね。医療は究極のサービス業なので。今後も色々展開していきたいですね。

SHOKO KAMIWATARI

PHAM NGUYEN QUY

MUTSUMI YANADA

MAYU HIBI

MASATOSHI KANAMOTO

地域になくてはならない病院をめざして

Round table discussion